



令和 5 年 7 月 3 日  
海 上 保 安 庁

## 英語版紙海図の廃版について

電子海図の急速な普及を踏まえ、我が国が単独で刊行する日本語・英語併記の紙海図（国際基準に準拠）は継続しつつ、外国人船員の利便性のため英国と共同で刊行していた英語版紙海図を廃版します。これによる航海安全への影響はありません。

- 世界の船舶で海の DX（デジタル・トランスフォーメーション）が進んでいます。電子海図が急速に普及する一方、紙海図の利用は大きく減少しています。また昨年には、英国海洋情報部（UKHO）が、紙海図の刊行を徐々に取りやめ、デジタル化を推進すると発表しました。
- 海上保安庁と UKHO は、外国人船員の利便性のため、日本周辺の海域で英語表記のみの紙海図を平成 18 年から共同刊行してきましたが、電子海図の急速な普及と海上保安庁が同じ海域で日本語・英語併記の紙海図を刊行していることを踏まえ、この英語版紙海図については、令和 6 年 7 月頃から令和 8 年度にかけて段階的に廃版することになりました（海図ごとの具体的な刊行停止時期は、事前に水路通報及び下記サイト（※1）で随時お知らせします。）。
- 日本語・英語併記の紙海図は、海上保安庁が単独で今後も刊行を継続する海図です。これらは国際水路機関が定める国際基準に準拠しており、英語版紙海図と同じ海域をカバーしているため、これらの利用により航海安全に影響ありません。
- 現在、国際水路機関や国際海事機関では、次世代電子海図（S101 電子海図）の準備が進んでいます（※2）。S101 電子海図では他の情報（リアルタイムの潮汐・潮流情報等）を重ねて表示できるなど、安全性・利便性がより高まります。海上保安庁は S101 電子海図の刊行に向けた準備を進め、海の DX を推進していきます。

※1 水路図誌発行のお知らせページ：

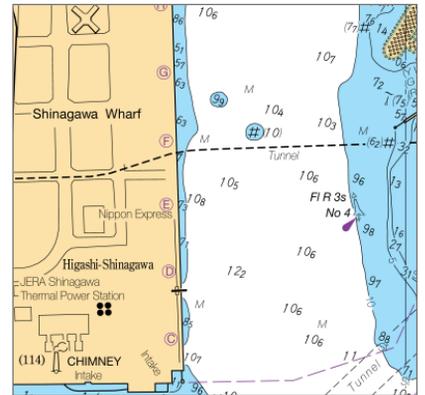
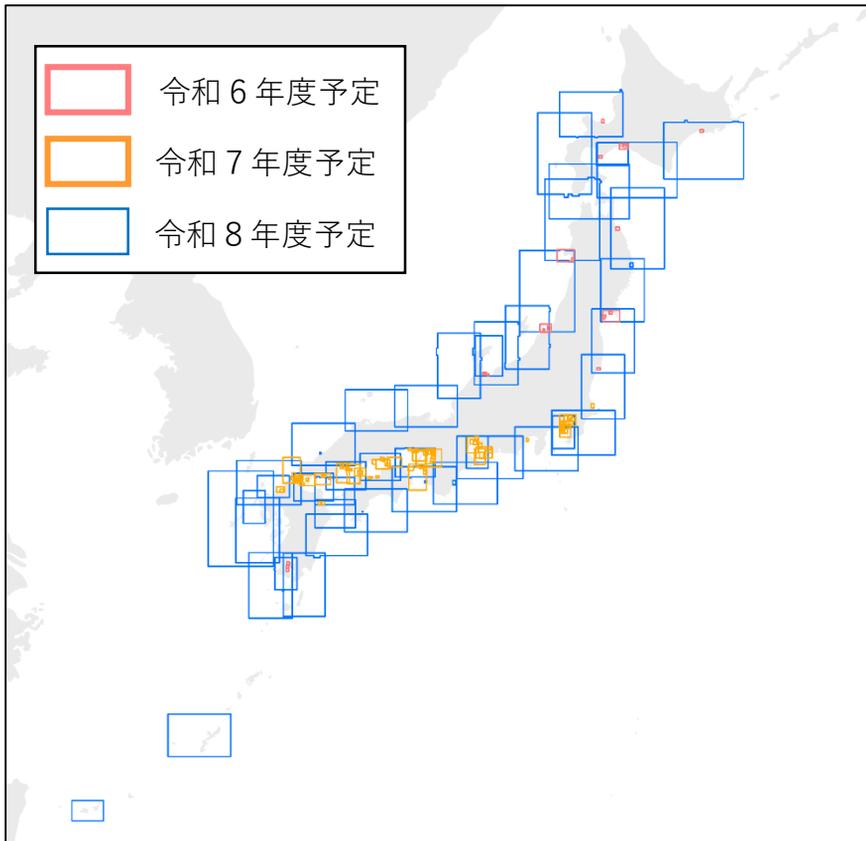
<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/chart/oshirase/default.htm>

※2 国際海事機関は 2029 年 1 月以降、一定の新造船から、次世代電子海図に対応した電子海図表示装置の搭載を義務付ける決定をしています。

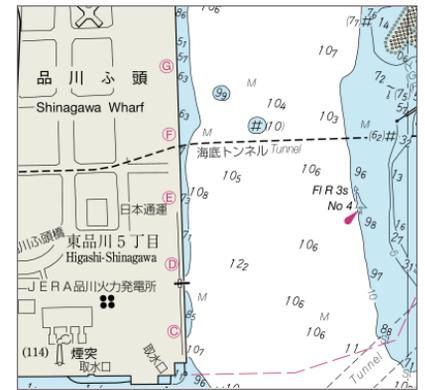
# 英語版紙海図(JP版海図)の廃版について

英語版紙海図（JP版海図）は、令和6年7月頃～令和8年度にかけて段階的に廃版します。廃版後のJP版海図は、航海に使用することが出来なくなりますので、最新版の電子海図または日本語・英語併記の紙海図（W版海図、JP版と同じ内容）の使用をお願いします。廃版予定は、約3カ月前から以下サイト及び水路通報でお知らせします。

<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/chart/oshirase/default.htm>

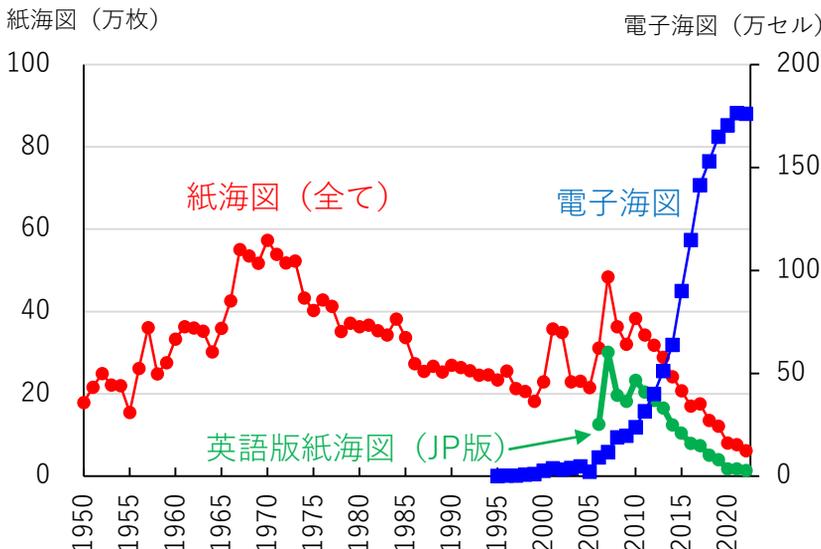


JP版海図



W版海図

## 我が国の海図の供給数の推移



電子海図表示装置（ECDIS）が普及した結果、電子海図の利用が増加し、紙海図の利用が減少しました。